中国がわかるシリーズ 30
五代十国時代に入る （前）

ライフネット生命保険株式会社
代表取締役会長兼 CEO、出口　治明氏

907 年、開封を拠点とする朱全忠は、唐を滅ぼし、梁を建国しました。北方では、耶律阿保機が、キタイの河汗に推戴されました。この後、960 年に宋が建国されるまでの約 50 年間、中原には、節度使上がりの梁、唐、晋、漢、周の 5 王朝が（それぞれ、先行する王朝と識別するため、後梁、後唐、後晋、後漢、後周と呼ぶ）、地方には 10 国が相次いで建国されましたので、この分裂時代を、一般に、5 代 10 国と呼びます（但し、最強の王朝であったキタイや南詔などは含まれていない。5 代 10 国の数え方は、かなり恣意的であると思います。おそらく五行説の影響でしょう）。

なお、後唐、後晋、後漢は沙陀族、すなわちトルコ民族の王朝です。沙陀族は軍事には長けていましたが、統治の才はありませんでした。宰相、馮道は、梁を除く 4 王朝に仕え、（変節漢として）宋の司馬光に断罪されましたが、16 世紀後半の思想家、大明の李贄（卓吾）は、民衆の安寧に尽くしたと高く評価しました（祖先がムスリム商人であった李贄は、合理性を重んじ、聖人を庶民の側に引き寄せたことで知られています）。

唐の衰亡と軌を一にするように、南詔、新羅や渤海も衰えを見せ始めました。新羅では、780 年、武列王の王統が途絶えると、王位を巡る争いが激しくなり、国内は大いに乱れました。その間隙を縫って、9 世紀前半には、張保皐のような軍閥大商人が現れ、唐・新羅・日本を股にかけた東シナ海の交易で巨富を築きました。892 年、農民出身の甄萱が、[後]百済を、904 年には、新羅王族の弓裔（その武将に王建がいました）が、摩震を建て、韓半島は再び 3 国が争う形になりました（後三国時代～936）。南詔は、902 年に滅び、その後は、タイ系の大理（937～1254）が継ぎました。

Copyright　ⓒI-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
発行人：岡本和久、発行：I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
URL: http://www.i-owa.com；E-mail: info@i-owa.com